



学校法人
鎌倉女子大学

令和7年度／中等部・高等部入学式（4月7日）

式辞からの抜粋―「学・校」の意味するもの―

皆さん、これから皆さんが通う鎌倉女子大学中等部・高等部は、言うまでもなく学校ですよね。私達は、ごく普通に「学校に行く」と言いますよね。では、学・校というそれぞれの漢字の意味をご存知でしょうか。

恐らく、学校の「学」という字は、誰もが連想することでしょう、「学ぶこと」だと。つまり、国語や社会、理科や数学の様々な知識や、みんなが集団生活を営む時に気をつけないといけないマナーやルールを、先に生まれて人生経験、社会経験をし、既にそれを豊かに知っている先生方から学ぶことだと。とっても大事なことですよね。

ボクはね、知識って、とても面白いものだと思うんですよ。大人は、子供よりも無論多くの知識をもっているでしょうが、でもそれを知らなければ、小学生が知っていることを大人が知ってるとは限らないですよ。ですから、学ぶということは、偉い学者だって、内閣総理大臣だって、誰だって彼だって、知らないことについては、小学生にも素直に、謙虚に頭を下げなければならないわけです。つまり、学ぶ時には、誰もが素直にならなければならない、謙虚にならなければならない。だから、素直さ、謙虚さのない人に発展はありません。

では、学校の「校」の字の方は、どういう意味でしょうか、ご存知ですか。これ、あんまり気がつかないのではないのでしょうか。知ってる人は、もう知ってるかも知れませんが。だって、君達今まで小学校に通っていたわけですからね。でもね、恥ずかしながら、ボクは、校という漢字がどういう意味か、近頃まで考えてもみませんでした。勿論、それこそ学校の「校舎」とか、自分で書いた原稿を本にする時、誤字がないか、脱字がないか確認し、場合によると修正する「校正」とか「校閲」といいますが、そうした言葉は普通に解^{わか}って、使っておりましたよ。でもね、学校の校という単独の一文字の意味については、特に振り返りもせず、この年までおりました。

じゃあ、どういう意味かと言いますと、これ「考える」という意味なんだそうですね。先生がおっしゃっていること、教科書に書いてあることを、ただ学ぶ、覚えるというだけでなく、自分が考えてみることに、この自分がね。これご免なさいね、先生方、「いや、先生はそう言っている、教科書にはそう書いてある、でも本当にそうなのか、それとは違った他の見方、他の論証の仕方はないのだろうか」と考えてみることに、これがとっても大事なことです。そして、物を考える時、ただ頭だけで考えるのではなく、君達のような若い瑞々^{みずみず}しい感受性、手垢^{てあか}にまみれていない感性を働かせなくてはならないということなんです。

それこそ今日の学問の基礎を作り上げたギリシャの大哲学者のプラトンやアリストテレスは、「学問は驚きから始まる」といいました。つまり、ビックリする感受性が学問を生み出すんだよと。エッ、何故^{なぜ}って。この「学問」という言葉だって、他人^{ひと}様から受動的に「学ぶこと」と、自分が能動的に「問うこと」との組み合わせの作業じゃないですか。

ですから、学校とは、自分の感性を大事にしながら、「学びながら考えるところ」、「考えながら学ぶところ」なのです。ですから、そういう姿勢で学校にやってくると、勉強もとっても面白くなっていくことと思います。

さあ、皆さんにとって新しいステージ、鎌倉女子大学中等部・高等部で本格的に学問を始めましょう。先生方も生徒の皆さんに負けないで、しっかり学問していきましょう。

[>前のページへ戻る](#)